

---

# のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

デュアル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WORLD」

### 【著者名】

デュアル  
【あらすじ】

主人公が目覚めた場所はなんとドラえもんの世界！だがそこは地獄化としていた・・・

主人公とオリキャラ？とドラえもんのキャラクター達は生き残れるのだろうか！？

はい、ちなみに自分は、初投稿で 国語・銃名・（PC）ほとんど「0」です！なので駄作です。それでもいい方は、読んでいただければ嬉しいです。

恋愛・友情・みたいなのは入れたいと思います チートみたいに強すぎます。てかチートです 無理な人は控えめに・・・ 注意パクリ要素や作者の欲望が入るときもあります。そんなところは温かい目で見ていただければ嬉しいです・・・

## プロローグ（前書き）

最初の投稿失敗したので削除してまた書き直しました

## プロローグ

今、ドラえもんの世界にいる・・・僕の名前は 天野 輝<sup>あまの ひかる</sup> おまの

目覚めたらドラえもんの世界にいた、それに気づくまでの話  
輝「どこだここ？」

目覚めた場所はどこか倉庫の中

輝「確かに僕は、交通事故に合い死んだはず・・・とつあえず出よう」

輝は、外に出て人を発見した。ここがどこかを聞こうとして近寄つていく

輝「すみません、ここどこです・・・！」

言葉を飲み込んだ理由は・・・人が人を喰つてるじゃないか！

輝「あ・・・ああ・・・うわああああああああ！」

全力でその場所から走り出す、もてる全ての力で走る

その途中も悲鳴や奇声も聞こえていた

「キヤーー！」

「「あああ〜〜」」

倉庫があつて開いていたから、中に飛び込んだ

輝「は〜・・・は〜・・・なんだつたんだよ・・・」

と言つた後すぐにの声がした

？「誰ですか！？」

生存者の声！自己紹介をしとかないと

輝「僕は天野 輝です」

？「生存者ですか、僕は野比のび太です」

互いの自己紹介が終わり

輝は疑問に思うことがあった

輝（野比のび太・・・まさか！）

心の中で何かを確信する輝、だつたそして自分の持つてている能力にも  
だんだん気づいていく・・・

## プロローグ（後書き）

良くしておきたことと思こます小説もやじも・・・

では終わ

## 第一話（前書き）

作者「駄作でスイマセン」

のび太「駄作すぎます」

作者「うう・・・のび太に言わると傷つく」

のび太「（ムカ）」

作者「後書きコーナーで何かしようともおもってます。では

輝「始まります」

## 第一話

輝「のび太君は、どこに行く予定だったのですか？」

のび太「はい、避難所の学校へ行こうかと思ってたのです」

その言葉を聴いた輝は生存者がいるかもしれないと思った

輝「僕も付いて行きます。もしかしたら知ってる人に会うかもしれません」

輝はこっちに知り合いがいると感じているのかかもしれない

のび太「分かりました。付いてください」

のび太に付いてくと倉庫の出口らしきドアがあつた。ドアを開けると外に出た

のび太「そとは、相変わらずですね」

と、のびたが言う

輝「はい・・・そうですね・・・」

と、悲しそうな顔で言う、輝

のび太「学校まで後ちょっとですが、そういうえば輝さん武器はありますか？」

輝「いえ、ここに来るまでも何回か死にかけました。」

のび太「ならこれあげます。一つと使いかたがわからないこれあげます」

そう言って出したのはハンドガンベレッタと小さいチャクラムを出した

輝「ありがとうございます。(このチャクラム戻つてきそうだな...)」

と色々心の中で考えていた輝であった

のび太「速めに行きましょうまた、ゾンビ達が来ます」

輝「あ、すいませんでは、行きましょうか」

そう言って進んでいくとゾンビが向かってきた

「あああ~」

輝「一体の様ですね、僕がやつてみます。本当は殺したくありませんが！」

と言い残し先ほど貰つたチャクラムをとりだす。そして投げた

輝「ふん」

投げたチャクラムはまっすぐゾンビに向かい首元をかつ切つた  
そして血まみれのチャ克拉ム（刃先）が戻つてくる

輝「・・・殺しちゃつたよ本当に」

のび太「輝さんこうゆう時は自己防衛だからしょうがないです・・・

のび太は悲しい顔をして言つた

輝「のび太君・・・一緒にがんばりましょう！」

のび太「はい！」

そんな話をしている間に学校の校門前に付いていた

のび太「きました」

そして学校に入つていいく二人

のび太&輝「ツ！！！」

二人が見たものは・・・犬！そう人を食べている犬

のび太「犬までもがゾンビに・・・」

輝「簡単には通さしてくれないようですね」

犬「ガルルルルル」

のび太「別れて戦いましょう！」

輝「分かりました」

のび太は 犬の頭にピンポイと打ち抜いたそのころ輝といえば

輝side

輝「これでも喰らえ」

そういうつてチャ克拉ムを投げた それが足を全部切り落として、ゆ  
つくりと犬へ向かっていく

輝「さよならだ」

ハンドがんで頭を打ち抜いた

のび太「終わりましたね」

輝「終わったね」

と交互に言い合つた

そしてついに学校の中へと入るのであつた

## 第一話（後書き）

作者「輝君に質問です」

輝「はい」

作者「何が得意ですか？」

輝「体育です」

作者「次は、好きな事は何ですか？」

輝「読書とパソコンと同居してるので（次回で）手料理ぐらいでですね」

作者「なるほど質問は以上です。次回をお楽しみに」

輝「次回は生存者がたくさん居るよ」

作者&輝「終わりです」「

## 第一話 保健室＆無駄な話しあい？（前書き）

作者「文字が少なければすいません」

輝「なんで、ですか？」

作者「PCのメモ帖から書いてるからだ」

のび太「本当に駄目な作者ですね」

作者「のび太に言われたくないんだけどな・・・」

輝「すみません、長らくお待たせしました。始まります

## 第一話 保健室＆無駄な話しあい？

学校内に入ったのび太と僕は近くの教室から生存者を探すのであった  
輝「さっきのは危なかつたですね、あとのび太君入り口から一番近  
い教室はどれですか？」

のび太「目の前の保健室です。あと輝さん犬やる時に結構グロイや  
りか「のび太君まず自分から入ります後から来てください」  
途中で言つてることを邪魔されたのび太であった

のび太「わかりました・・・」

そういうつて、のび太は警戒態勢に入つていた  
輝「保健室ここですね」

そういうつて静かにドアを開けた。開けた瞬間中から声が  
？「誰だ！！」

バットを構えたゴリラの様な男の子が言つた  
輝「待つてください、僕らは生存者です」

と言つたらバットを收めてくれてた

？「脅かすなよ・・・」

輝「ごめんなさい」

と、言うやり取りを終えた後すぐに誰かの声がした

？「輝・・・！」

輝「？」

輝は声のした方に向いた瞬間・・・

輝「ゴホ！！」

いきなり抱きつかれた

？「輝だよね？輝だよね！？」

と、聴かれたので

輝「ああ、そうだよ。てか、いきなり何するんですか真理奈！」

真理奈「ん、ごめん輝！嬉しくてつい／＼／＼

そのときのび太がちょうど入ってきた

のび太「輝さんなにをしてるのですか・・・」

と、聽かれた。無理もない女に抱きつかれてるのだから・・・

それでわれに返つた輝が言う

輝「真理奈、もういいだろ？離してくれたって」

真理奈「久しぶりに会えたから、後十秒だけ」

輝「まつたくもう、ん？お前顔赤いぞ熱でもあるのか？」

と、いつて、手は使えなかつたから 抱かれているため 昔みたい

なやり方？でおでことおでこでコツンコのやり方を試した

輝「熱は無いようだが、真理奈もつと顔赤くなつてないかい？」

そのときの真理奈は再起不能の状態であつた

真理奈「ツ！／＼／＼／＼／＼」

顔が真っ赤になり ボシュー（効果音） そして真理奈はその場

所で目を回しながら倒れこんだ

輝「あわつと！」

輝は真理奈を抱えて一緒に倒れこんだ

輝「なんだつたんだ・・・、おーい真理奈大丈夫か？」

輝よ お前鈍いぞ・・・b y作者

輝「何か聞こえた様な・・・がまあいいや」

のび太「そのすぐ近くにベッドがありますからそこに寝かせてあげ  
てください」

輝「助かりました」

のび太「さて、ジ、ジャイアンそれに皆も無事だつたんだね」

?「ノロマなお前がよくいき残れたな」

狐顔の男の子が言つた

?「のび太さん、無事だつたのね」

女の子が言つた

のび太「結構な人が助かつてますね！」

そこで皆は、僕と真理奈に合わせて自己紹介を始めてくれた。（の  
び太も含めて）

?「僕は、出来 杉英才」

? 「僕は、骨川 スネ夫」

? 「俺様は剛田 武皆からはジャイアンと呼ばれている」

? 「僕は、一年の山田太郎!」

? 「白峰だ・・・」

? 「私は、桜井咲夜よ」

? 「私は、源 静香です」

? 「この町の町内会長をやっている 金田 正宗だ」

輝「僕は、先ほど言った。天野 輝です。あそこには寝てるのが星野ほしのまりな

真理奈です」

真理奈「ううん・・・ 皆さん何をしてるのですか?」

起き上がった早々に言つ

輝「皆さん、すみませんトイレ行きます。真理奈付いて来てください

真理奈「あ、うん」

そつ言つて保健室を出た。そしてトイレに行かず空きの教室に入つた。真理奈はわからないようだ

真理奈「輝、トイレに行くんじゃなかつたの?」

と、的外れみたいに言われた。から説明をした。

輝「それ、出るための口実です。で、ですね真理奈「こはどこだと思ひます?」

真理奈「え、え」と・・・ススキが原という名の町・・・あ、まさか!」

輝「気づいたみたいだね、そう、ここはドラえもんの世界なのです」  
真理奈の前で言つたが真里菜は「なぜわかるの?」見たいな顔をしている

輝「よく考えてみてください、野比のび太と言つ男の子とその4人の友達たちそして、ススキが原という町の名前、同考えても僕達の世界での漫画・アニメに出てます」

真里菜「よく考えたらそうね・・・」

輝「その話は置いといて、真里菜お前どうやってこの世界に来たの

ですか？」

真理奈「輝が死んだ後に私泣きながら寝たの那個夢の中で誰かが輝と会えるといわれたから」

真理奈はそれまでの出来事を話していた

? 「田覚めよ、真理奈よ」

真理奈「あなたは誰?」

? 「私は、あなた」

? に光がまとつた。眩しそぎたから真理奈は目をつぶってしまった。もう一度目を開けたときは、もう一人の自分がいた

真理奈「わ、私がもう一人・・・・」

真理奈（夢）「そう 私は、あなた」と、夢の世界の真理奈が言う

真理奈「気私が悪いけど私が私に何のようなの?」

真理奈（夢）「あなたは、愛しい人に会いたいですか?」

真理奈「まさか、輝に会えるの!」

真理奈（夢）「はい、会えます。1カ月後にはあなたは死にますよ」

真理奈「え? 死ぬの・・・・」

真理奈（夢）「そこでです。あなたを輝君のいる世界に飛ばします。輝君の方に行くのならこちらの世界では心臓発作で死んだってことになります。痛みは感じません、それが輝君と会わずに1ヶ月過ごして痛みを感じて死んで輝君と会わないかです。どちらにしますか?」

真理奈「・・・・輝の所に行きます!」

真理奈（夢）「私ならそういうと思つてましたよ では、送ります」

真理奈「待つて、あなたをなんて呼べばいいか教えてください」

真理奈（夢）「あなたが呼びたいように呼べばいいです」

真理奈「じゃあ・・・美月 星野 美月と呼んでいい?」

美月「星野 美月・・・いいですね!」

真理奈「よかつた それと人格に移り住むこと出来る?」

美月「いけますがどうしてですか?」

真理奈「こつでも話せるよ」こと何かあつたら直ぐに替われるよ」  
にです。」

美月「なるほど、じゃ、あちらで話しましょ」つ、では飛ばしますよ  
キュー」ン テレー ポートの音 ポン 到着音

輝「で、いまにあたるつて事ですか」

真理奈「うん／＼（輝と二人つきりだ／＼）」  
と、内心思つていたが

美月（真理奈、なにをかんがえてるの？？？）  
と、美月に突つ込まれる真理奈

真理奈（「めん、美月つい、考え方ちやつた？？？）

輝「真理奈、どうかしましたか？」

心配する輝

真理奈「大丈夫だよ 美月と話してただけだから」

輝「ならいいですが・・・またの機会に美月さんとは、話してみた  
いですね」

真理奈「またの機会にね  
」

と嬉しそうに言い返す

美月（いい感じだな君たち・・・）

そう思う美月だった

輝「さて、もうそろそろ戻るつ、畠さんが心配してゐるだと思ひます  
し」

真理奈「そうだね」

そう言つて保健室に戻るのであつた

## 第一話 保健室＆無駄な話しあい？（後書き）

のび太「作者なんですか、（のび太も）つて……」

作者「急いで直していたんだ。直していない所もあるかも……」

輝「あの二人放つておいて、おきましょうか」

真理奈「だね」

輝＆美月「後書き」「一 始まるよ」

輝「今日のゲストは、同居している星野 真理奈さんです。（スト

ーリー場は、言つてません）

真理奈「よろしくお願ひします」

輝「早速ですが、好きなことなんでしょう？」

真理奈「料理にテレビに家事、かな」

輝「次に何個か能力を教えてください」

真理奈「動物との会話と未来予知あとは、・・・秘密です

輝「なるほど、最後の質問です。好きな人はいますか？」

真理奈「そ、それは／＼、・・・」

美月「（私が言つよ）」

真理奈「（まつて、）」

美月「真理奈が好きな人は、あな」（まつて――！――）

真理奈「それでは、失礼します！！」

輝「真理奈がすつ」スピードで走つていきましたね

作者「終わりです。後書き」「一 嵐くてすいません」

## 天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介（前書き）

作者「作者の『デュアル』です。もつ『デュアル』でいきます。輝と真理奈ちゃんの書いてみたのですが、なかなか思いつかなくて、適当です。」

輝＆真理奈「『酷いですね（わね）』」

デュアル「国語の自分に言われても・・・」

輝「やつぱ、駄目作者ですね」

真理奈「がんばってくださいよ。駄目作者さん」

デュアル「うう・・・真理奈ちゃんまでに言われるとは、ではどうぞ」

輝＆真理奈

「『ヒツヤ』」

## 天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介

名前	天野 輝
性別	男
年齢	16歳
性格	憎めないほど鈍感
純粋	たまに悪魔化（腹黒と思つておいてください） 優しい
仲間思い	外見 リボーンの沢田 綱吉の死ぬ気モードの炎がないバージョン と思ってください、服はご想像でまかせます（作者が思いつかなくてすいません）
好きなもの	仲間を大切にする人
甘いもの	真理奈の手料理
嫌いなもの	仲間を大切にしない人
自分の料理	悪い人
悪い人	能力は 思いつきしだい出します。思いついてるのはこれです「デュアルハンド」銃・剣・大体のものを両手で使いこなす（マグナムやコルトバイソン含めて、いたつて、普通ですね・・・）
名前	星野 真理奈
性別	女
年齢	15歳
性格	優しい

仲間思い  
寂しがり

外見 金髪のロングヘア、見た目はスリム、目は黒つて言うより  
青っぽい（日本人です）胸は・・・でかめ、服装はご想像でお任せ  
します

好きなもの テレビ

料理  
風呂

輝（笑）

家事

嫌いなもの 仲間外れ

ナス  
ピーマン

野菜類何個か

悪い人

能力は 第一話の後書きコーナーに載せてあったのと 陰陽師設定  
です

名前 星野 美月

性別 女

年齢 15歳

外見 真理奈と同じ 口調が猫口調

好きなもの 真理奈と同じ

嫌いなもの 虫

暗闇

犬（大人の犬）

能力は 基本真理奈と一緒に、フェニックス（不死鳥）を呼ぶことが  
できる。名前は ムウ だそうです。

真理奈とムウ（フヒークス）を共用である

天野 輝&星野 真理奈（美月）の紹介（後書き）

輝「駄目作者なんですか?、僕たまに悪魔化つて  
デュアル「ゼクセルさんの星也君とかぶるから悪魔化にしておいた」

真理奈「作者さん」

デュアル「どうしました。真理奈ちゃん？」

真理奈「いつペん死んでみますか?」

デユアル「なんで！？どうしたの！」

輝＆真理奈

卷之三

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6961z/>

---

のび太のバイオハザード「DEAD OF THE WOLRD」

2011年12月27日20時48分発行